

オイスカ中部日本研修センター創立 50 周年によせて

- ・ Rahim Ullah(ラヒム・ウッラ/バングラデシュ)
- ・ 1983 年～1984 年、養鶏 1 年半



オイスカ中部日本研修センター

3 ヶ月の日本語コースの後、1983 年に岡崎市の松本養鶏場にて研修

私は、現在、オイスカ・バングラデシュの研修センターでコーディネーター、また、養鶏担当として働いています。帰国した 1984 年、研修センターに養鶏場を立ち上げ、また、1999

年から 2002 年にかけては、養鶏の専門家として、オイスカ・ミャンマー研修センターに、そして、2009 年から 2013 年には再度、中部日本研修センターに赴任、500 羽程の養鶏場を建設しました。

私は養鶏の分野で研修を受けることが出来、オイスカに感謝しています。また、松本養鶏農場のオーナーの松本氏と農場長の鈴木氏にも感謝しています。それは、最初から、養鶏経営と孵化技術に全面的な支援をしてくれたからです。また、オイスカのイデオロギーと活動は、私の人生のマイルストーンです。この養鶏技術は海外研修生への訓練とセンターへの経済的支援のために重要な役割を果たしています。それは私の願望でもあり、また、成果の一つです。

私が 23 歳の時、養鶏技術を学ぶために心を尽くしたその望みは、この技術を若い世代に広めて、鶏の卵と肉を豊富に生産することでした。私の国は人口も多くイスラム教徒の国なので、毎日食べる動物性タンパク質の中で鶏卵と肉が必要です。消費者に良質の卵を供給することが出来ます。私は、実践的な経験に基づいて「養鶏の手引き」という本（英語）を書きました。この本は、現在研修センターでの教科書として使用しています。

一方、中部日本研修センターで経験した国際青年養成講座の中で新入社員と一緒に歩いた 40 キロは、私の人生の大きな記憶の中にあります。また、研修センターで毎日食事を提供して下さった慶子さん達のセンターの味噌汁などの食事は大好きでした。

研修センターでは、とても快適な生活を送ることが出来ました。再赴任時には、私は研修センターの 3 階で 4 年間を過ごしました。毎日、私は部屋を綺麗にし、仕事後は部屋に戻ってくると、安らぎの場として、また、心地良い睡眠を取ることが出来ました。本当に、研修センターとして、すべてが整っていました。センターは、木々と山に囲まれています。自然環境は、優しく平和です。私は、この美しい場所を選び、研修センターを設立した皆様に感謝しております。

日本に何度も行かせて頂き、上記の様に多くのことを学ぶ事が出来ました。この様な機会を与えて頂いたオイスカに敬服すると共に、心よりオイスカ中部日本研修センターの、より多くの繁栄をお祈り致します。